

“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想（案）概要 ～東静岡から名勝日本平、三保松原に広がる地域の整備～

【第1章 「場の力」の最大化を図る地域づくり】

【高い「場の力」を有する東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域】

富士山を仰ぎ見る最高の「場」

- ・世界遺産富士山を仰ぐ神話・歴史・文化溢れる日本平
- ・「芸術の源泉」、「信仰の対象」の両面で富士山とつながる三保松原



富士山を仰ぎ見る最高の「場」
名勝 日本平からの眺望



徳川家康公を祀る
久能山東照宮社殿(国宝)



万葉の昔から愛される三保松原の
白砂青松と霊峰富士の眺望

東西軸・南北軸の「交流拠点」

- ・古代東海道遺跡（古からの東西の交流軸）
- ・活発な東西交流
- ・中部横断自動車道の開通による山梨、日本海に至る新たな交流の結節点



本県を代表する「学術、文化・芸術、スポーツ」施設の集積エリア

- ・数多くの高等教育機関の集積
- ・文化・芸術、スポーツ施設の集積
- ・集積する様々な施設の連携した取組



【目指す姿】 世界の宝「富士山」をアイデンティティの源とした一体性のある地域

富士山を眺望する聖地「日本平」が中心に位置し、富士山が生活に密着する当地域は、世界の宝「富士山」をアイデンティティの源とした一体性のある地域づくりを進め、国内外の人々を惹きつけ、憧れを呼ぶ「場の力」の最大化を図ることがその地域性に最も適っています。

- ・日本平山頂部を当地域の特別な「場」と捉え、「中心」とする視点
- 【取組の視点】・東静岡を「陸の玄関口」と捉える視点
- ・三保松原を富士山の普遍的価値を証明する上で不可欠の構成資産と捉える視点

【地域づくりのあり方】

(1) 「場の力」を高める「面」としての地域づくり

- 「点」から「線」、「線」から「面」への地域づくり
 - ・個々の施設の魅力の磨き上げや、施設間連携の強化
 - ・歴史・文化・神話など地域に根差したストーリーづくり
 - ・「協働の力」の積極的な活用
- 「点」と「点」をつなぎ「面」に高める公共交通ネットワーク
 - ～キーワードとなる「脱車（だつくるま）」～
 - ・利便性が高く魅力ある公共交通によるネットワーク構築
 - ・様々な公共交通の組合せ（バス、ロープウェイ、水上交通など）
 - ・歴史、文化のストーリーを辿る公共交通のネットワーク

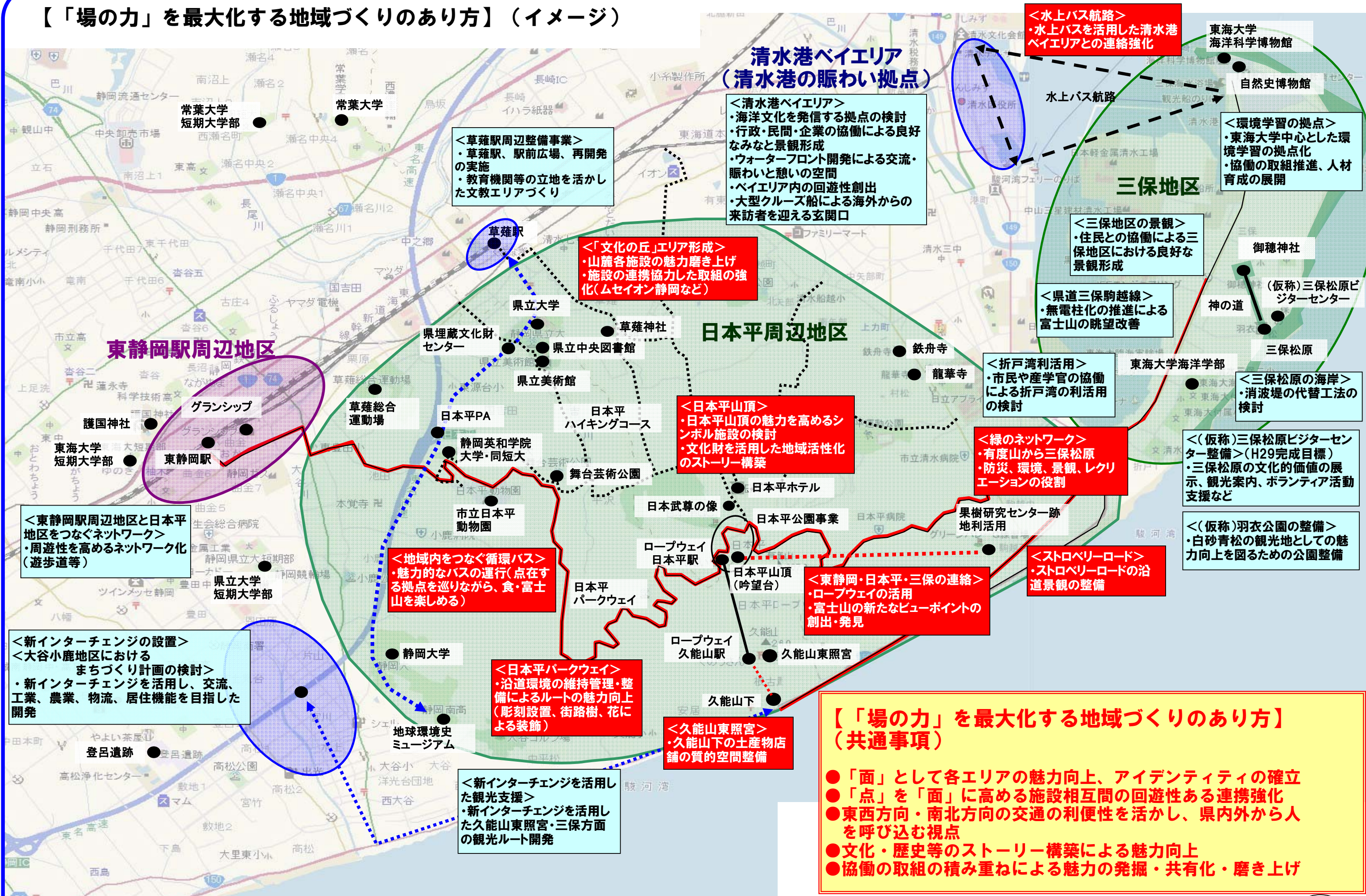
(2) 地域の特徴や独自性を打ち出した求心力の強化

- 交通の利便性を活かした地域づくり
 - ・飛躍的に高まる交通利便性を最大限活かした地域づくり
 - ・県内に加え、国内外から人々を呼び込む求心力の高い地域づくり
- 地域の独自性の打ち出し・アイデンティティの確立
 - ・自律的、持続的に発展できる独自性ある地域づくり
 - ・大都市にはない静岡らしさ、個性・特徴ある地域づくり
 - ・アイデンティティの源となる富士山を仰ぎ見る日本平山頂のシンボル施設整備
 - ・「学術、文化・芸術、スポーツ」の集積地である特長を前面に打ち出した地域づくり

(3) 県都静岡にふさわしい地域づくり

- 東静岡と静岡都心、清水都心が相互に連携し活気が出る地域づくり
 - ・東静岡、静岡都心、清水都心が相互に連携して「プラスサム」の効果を生み出す地域づくり
 - ・県と市が連携して「場の力」を高める地域づくり
- 県都静岡の新たな交流の拠点づくり
 - ・都市機能の向上を図る県有地・市有地の有効活用

【「場の力」を最大化する地域づくりのあり方】（イメージ）



**清水港ベイエリア
（清水港の賑わい拠点）**

<清水港ベイエリア>
 ・海洋文化を発信する拠点の検討
 ・行政・民間・企業の協働による良好なみもとと景観形成
 ・ウォーターフロント開発による交流・賑わいと憩いの空間
 ・ベイエリア内の回遊性創出
 ・大型クルーズ船による海外からの来訪者を迎える玄関口

<水上バス航路>
 ・水上バスを活用した清水港ベイエリアとの連絡強化

東海大学
海洋科学博物館
自然史博物館

<環境学習の拠点>
 ・東海大学中心とした環境学習の拠点化
 ・協働の取組推進、人材育成の展開

<三保地区の景観>
 ・住民との協働による三保地区における良好な景観形成

<県道三保駒越線>
 ・無電柱化の推進による富士山の眺望改善

御穂神社
（仮称）三保松原ビジターセンター
三保松原

<折戸湾利活用>
 ・市民や産学官の協働による折戸湾の利活用の検討

<三保松原の海岸>
 ・消波堤の代替工法の検討

東静岡駅周辺地区

<東静岡駅周辺地区と日本平地区をつなぐネットワーク>
 ・周遊性を高めるネットワーク化（遊歩道等）

<新インターチェンジの設置>
<大谷小鹿地区におけるまちづくり計画の検討>
 ・新インターチェンジを活用し、交流、工業、農業、物流、居住機能を目指した開発

<草薙駅周辺整備事業>
 ・草薙駅、駅前広場、再開発の実施
 ・教育機関等の立地を活かした文教エリアづくり

<「文化の丘」エリア形成>
 ・山麓各施設の魅力磨き上げ
 ・施設の連携協力した取組の強化（ムセイオン静岡など）

日本平周辺地区

<日本平山頂>
 ・日本平山頂の魅力をもつめるシンボル施設の検討
 ・文化財を活用した地域活性化のストーリー構築

<緑のネットワーク>
 ・有度山から三保松原
 ・防災、環境、景観、レクリエーションの役割

<（仮称）三保松原ビジターセンター整備>（H29完成目標）
 ・三保松原の文化的価値の展示、観光案内、ボランティア活動支援など

<（仮称）羽衣公園の整備>
 ・白砂青松の観光地としての魅力向上を図るための公園整備

<地域内をつなぐ循環バス>
 ・魅力的なバスの運行（点在する拠点を巡りながら、食・富士山を楽しめる）

<東静岡・日本平・三保の連絡>
 ・ロープウェイの活用
 ・富士山の新たなビューポイントの創出・発見

<ストロベリーロード>
 ・ストロベリーロードの沿道景観の整備

<日本平パークウェイ>
 ・沿道環境の維持管理・整備によるルートの魅力向上（彫刻設置、街路樹、花による装飾）

<久能山東照宮>
 ・久能山下の土産物店舗の質的空間整備

<新インターチェンジを活用した観光支援>
 ・新インターチェンジを活用した久能山東照宮・三保方面の観光ルート開発

【「場の力」を最大化する地域づくりのあり方】（共通事項）

- 「面」として各エリアの魅力向上、アイデンティティの確立
- 「点」を「面」に高める施設相互間の回遊性ある連携強化
- 東西方向・南北方向の交通の利便性を活かし、県内外から人を呼び込む視点
- 文化・歴史等のストーリー構築による魅力向上
- 協働の取組の積み重ねによる魅力の発掘・共有化・磨き上げ

【第2章 東静岡駅周辺のまちづくり】

【目指す姿】 当地域の「陸の玄関口」にふさわしい「文化とスポーツの殿堂」

【取組の視点】

- ・当地域の「陸の玄関口」にふさわしい美しく風格あるまちづくり
- ・“ふじのくに”の新たな拠点として賑わいを生み出すまちづくり
- ・東静岡駅南北一体の統一感あるまちづくり

【まちづくりのあり方】

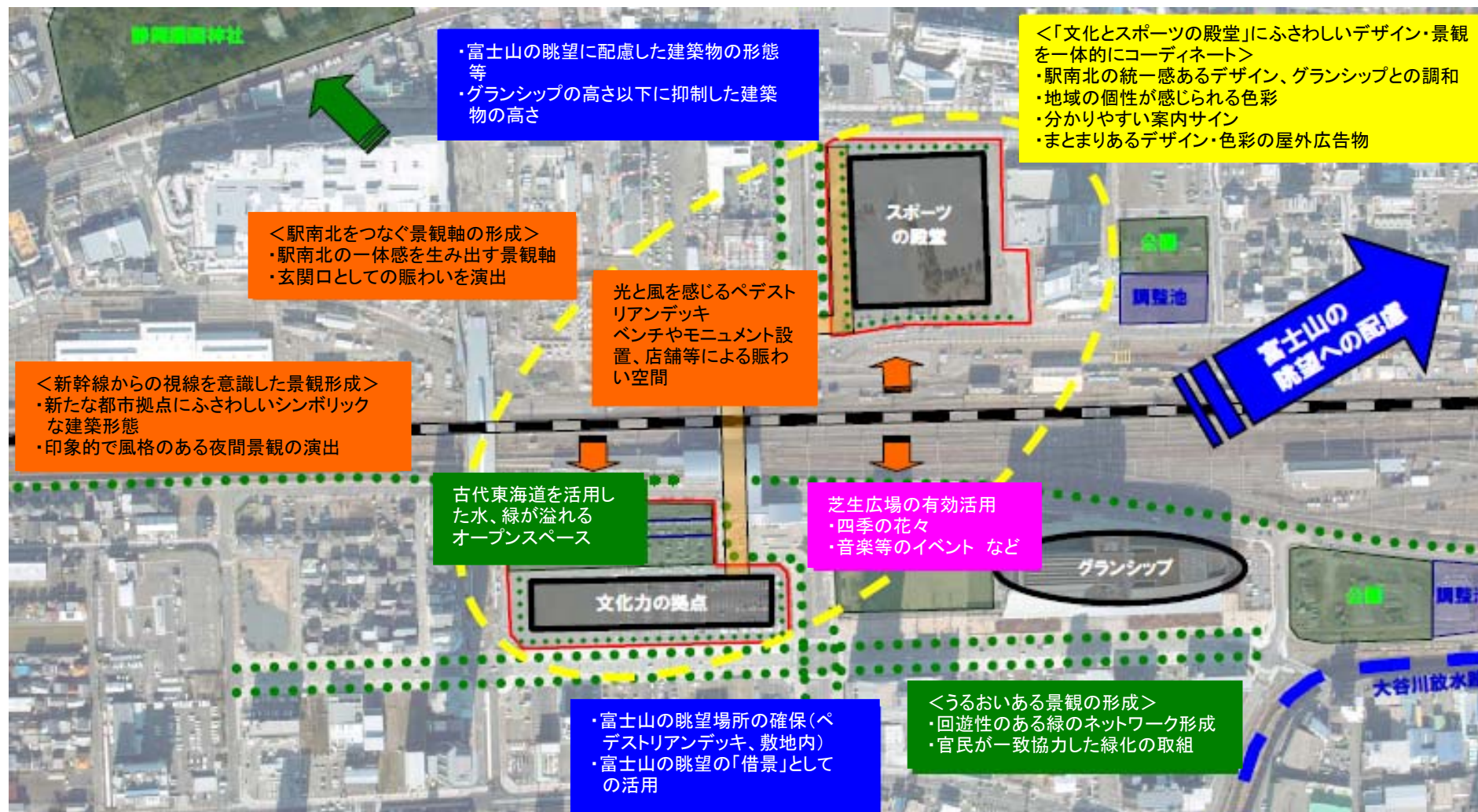
○「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいの創出

- ①国内外に誇る“ふじのくに”の魅力を発信するイベント・コンベンション等の舞台
 - ・「静岡」を世界に売り込むイベント・コンベンションの継続的開催
- ②学術、文化・芸術、スポーツ集積エリアへの玄関口
 - ・玄関口として備えるべき情報発信や結節点の機能
- ③文化・芸術、スポーツに触れ・楽しみ・親しむ場
 - ・高いレベルの文化・芸術、スポーツに触れ、楽しみ、親しむ場
- ④文化・芸術、スポーツを通じて多彩なふれあいを生み出す場
 - ・文化・芸術、スポーツの鑑賞、観劇、観戦、創作活動等を通じたふれあい

○統一感あるデザイン、景観の形成

- ①富士山の眺望への配慮
 - ・眺望に配慮した建築物の形態等
 - ・眺望場所の確保
 - ・眺望の「借景」としての活用
- ②美しい景観のまちづくり
 - ・新幹線からの視線を意識した景観形成
 - ・駅南北をつなぐ景観軸の形成
 - ・うるおいある景観の形成
 - ・印象的で風格のある夜間景観の演出
- ③「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいまちづくりの統一感あるデザインの形成
 - ・「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいデザイン、景観を一体的にコーディネート
 - ・背景となる丘陵の緑に映える建築形態
 - ・新都市にふさわしい光、水、緑溢れるオープンスペース
 - ・親近感あるデザイン

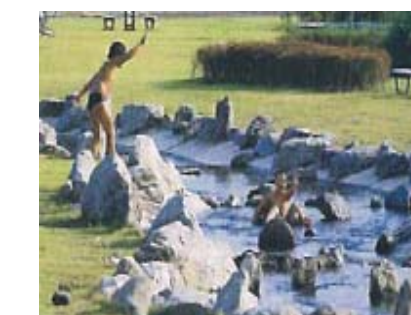
【まちづくりのあり方(イメージ)】



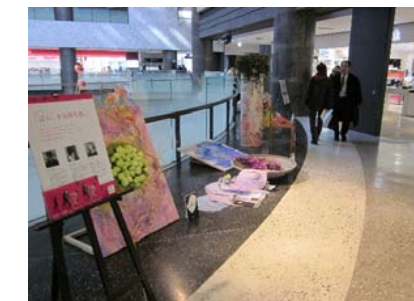
光と風を感じるペDESTリアンデッキ(イメージ)



水と緑溢れるオープンスペース(古代東海道イメージ復元)



水と緑溢れるオープンスペース(せせらぎの水辺空間イメージ)



ペDESTリアンデッキ等での作品展示(イメージ)



交流の場となる広場・オープンカフェ(イメージ)

【第3章 東静岡駅南口県有地に整備を見込む「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等】

【目指す姿】

世界の宝「富士山」をはじめとする数々の世界水準の魅力を生み出してきた本県の高い文化力を国内外に発信し、人々を惹きつける拠点

【取組の視点】

- ・「文化力」を通じて、世界から人々を呼び込む視点
- ・大都市にはない静岡らしさ、個性・特徴ある発想
- ・あらゆる人に向けて本県の「文化力」の高さを発信する視点

【コンセプト】

【導入すべき機能】

【機能例】

創造・発信

- ・魅力ある文化の創造
- ・国内外への文化の発信
- ・地域の伝統・生活文化の継承

学ぶ・人づくり

- ・文化を担う人材の育成
- ・“ふじのくに”ならではの学びの提供

出会い・交わる

- ・地域外交による国際化の推進
- ・多彩な文化活動と交流の拡大
- ・文化・芸術の香り高く、若者が集う魅力ある空間

個性ある文化の創造、磨き高め、国内外に向けて「文化力」の高さを発信する拠点機能

- 日本平や三保松原の歴史的、文化的価値、適切な保存管理の必要性等の理解促進
- 「食」、「茶」、「花」など本県の地域資源を磨き高め、独自の文化の創造、国内外に発信
- 文化施設相互間の連携促進、県内の文化施設の連携・交流促進するセンター
- アニメ、コンテンツ等による新たな文化の創造・発信（静岡に人を呼び込み、地域経済の活性化）

恵み（食文化、農業、林業、水産業）の豊かさ、世界水準の自然の美しさを実感できる機能

- 静岡の豊かな恵みの集積（味わい、求める）
- 静岡が誇る「食」、「茶」、「花」など農林水産資源の魅力発信
- 静岡の「和の食」の新しい素材や料理などを堪能
- 静岡の世界水準の魅力発信、静岡観光のゲートウェイ

次代の静岡を担う若者が集い、地域に根差した活動や、静岡ならではの学びができる機能

- ふじのくに地域・大学コンソーシアムを中心とした地域人材の育成、大学間、大学と地域社会との連携促進
- 静岡ならではの「学」を創出、他の地域にない魅力ある学びを展開

世代を超えて集い、生涯を通して学び、楽しみ、自らを高める機能

- 生涯学習のニーズに応える「知」の拠点
- 子供を応援、将来を担う感性豊かな人材を育成

歴史の観点から静岡を学べる機能

- 歴史の観点から静岡を学び、再発見できる展示
- 東静岡駅南口の古代東海道の遺構を活用した展示

東静岡から日本平、三保松原に広がる地域の玄関口にふさわしい交流の核となる機能

- 静岡のMICE受入れ環境の補完・充実
- 多彩な文化活動やイベント等を通じた出会い・交流
- 文化・芸術の香り魅力ある空間

留学生支援により海外との多彩な出会い・交流の創出、産業面からも海外とのつながりを深める機能

- 留学生を支援、多文化共生の拠点
- 海外のビジネスパーソンの招致、産業のグローバル化支援、国際交流促進

人と人とのふれあいが将来の暮らしに明るい展望を生む場としての機能

- 母親が静岡で子供を産み育てたい気持ちにさせる、母親同士が語らい交流を深めさせる
- 若者同士が出会い、語らい、ふれあいを生み出す、若者が自らの将来設計を描く機会を創出し、結婚、子育てに憧れを抱かせる